

三河國名所名寄

藏五十九年

年調	品	場備
月	目	所付
911		
才		



新名寄

備品	年月	場所
911		
才		

三河國名所名寄

一冊

愛知縣
額田郡
復原印

A911
才

國子位多うしむ此事あつてなむらんをゆひく
やう月替ひあつてなむらんをゆひく
経兼子、助の世に書信集の般りつてハ
仕年一の昔ハ老うしむて病所才多う仕
あの日こそ世に書信集の般りつてハ
北原紙、東野のあつての抄のふりあつて
足りる一仍て信紙のたまたま信名
たふ記

西郡

長山

三好三助紀隆

信所監物紀兼

愛知縣文化会館
昭和 33.7.30
40605

享保十九己十月朔日

有斐斎人

大田白雲法

八橋

古亭 〇 如く交まらざるは 佳しき事なり

春川百首 〇 猿まゝの猿を 猿まゝ 業平

三月月夜 〇 月夜に 柳陰

夕陽の川 〇 夕陽に 定家

彼まゝの 〇 彼まゝの 〇

海遊記 〇 花に 〇

〇 紫れ 〇

藤光行

〇 室の 〇

此哥の 〇

〇 夏 〇

源仲言

〇 〇

師仲

〇 八橋 〇

〇 〇

信成

〇 〇

〇 〇

〇 〇

安徳院 〇

〇 〇

〇

〇

享保十九年十月朔日

有斐敬人

太田白雲法

八橋

古今

✓ 如く夜まじりてあはれし侍もあはれ

三河百首

三月もさうらゝの常りの柳陰

みづの川のよまをたふらふ事 定家

彼等とあはれし侍もあはれし侍もあはれ

海道記

八橋の序より畧り

八橋の序より畧り 殿の男はあはれし侍もあはれ

あはれし侍もあはれし侍もあはれし侍もあはれ

あはれし侍もあはれし侍もあはれし侍もあはれ

あはれし侍もあはれし侍もあはれし侍もあはれ

あはれし侍もあはれし侍もあはれし侍もあはれ 信成

享保十九年十月朔日

あはれし侍もあはれし侍もあはれし侍もあはれ

あはれし侍もあはれし侍もあはれし侍もあはれ 安藤門院 四糸

あはれし侍もあはれし侍もあはれし侍もあはれ

くまのこゝろの事よき事とせしむる人

拾遺集のよき事とせしむる人

くまのこゝろの事よき事とせしむる人

拾遺集のよき事とせしむる人

くまのこゝろの事よき事とせしむる人

拾遺集のよき事とせしむる人

くまのこゝろの事よき事とせしむる人

拾遺集のよき事とせしむる人

くまのこゝろの事よき事とせしむる人

拾遺集のよき事とせしむる人

くまのこゝろの事よき事とせしむる人

くまのこゝろの事よき事とせしむる人

くまのこゝろの事よき事とせしむる人

くまのこゝろの事よき事とせしむる人

くまのこゝろの事よき事とせしむる人

くまのこゝろの事よき事とせしむる人

くまのこゝろの事よき事とせしむる人

くまのこゝろの事よき事とせしむる人

くまのこゝろの事よき事とせしむる人

くまのこゝろの事よき事とせしむる人

日

夫

新徳

後頼

光廣

拾遺

子載

後頼

新徳

後頼

道周

後頼

ふたつは白くし羽の落着

須佐院

ふたつは白くし羽の落着

村北

ふたつは白くし羽の落着

善領

ふたつは白くし羽の落着

長

ふたつは白くし羽の落着

海死

ふたつは白くし羽の落着

ふたつは白くし羽の落着

長明

ふたつは白くし羽の落着

中務

ふたつは白くし羽の落着

宗牧

ふたつは白くし羽の落着

ふたつは白くし羽の落着

ふたつは白くし羽の落着

親氏公

ふたつは白くし羽の落着

中務

ふたつは白くし羽の落着

古一... 道行上人 法

昔く... 八...

八... 八...

八... 宗甫

八... 光彦

六々歌中第幾仙 風流千歳慕幽玄 道春

世間一瞬皆陳迹 杜若為薪澤休田

清水岩 宗葉

八... 中院 通茂

杜若... 宗紙

二村山 夜の里よりみ合

夜八... 宗紙

今山中の法藏ききりよ古宗弄殿の
紀のよあつた一統の品を二百年の

おらうに村のりあの一

あけはりすまきほろあまのり

くくくくくくくくくくくくくく
詞苑

うれあむくくくくくくくく
橋能元

千載
くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく
後志

後志
くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく
平泰階

後撰
くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく
諸言

日
くくくくくくくくくくくく

くく村山の園のりあ
くく

後撰
くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく
頃

日
余はよえくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく
頼月

後撰
くくくくくくくくくくくく

あけはりくくくくくくくく
上総

Handwritten notes at the top of the page, partially obscured by a sticker.

今山中の法蔵寺をいふ古刹并殿の
紀元ありた一院居の品をいふはるり

おら〜むに村山のり〜

あけのりしあをけのりあをけのり

詞苑
い〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
福徳元

天仁元年大嘗会

友系二宮殿御居

志つゆの二村山のりあをけのりあをけのり
秋の花もさるり

大徳寺東人寺河守

あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

平泰時

後撰
あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

友系

諸宮

あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

日
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

後撰
あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

日
あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
上総

あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

新の歌

うらなひにひらひあはれなむと
さしづつとまよあまの

新
新

ま

うらなひにひらひあはれなむと
さしづつとまよあまの

曾根
後忌

うらなひにひらひあはれなむと
さしづつとまよあまの

西

うらなひにひらひあはれなむと
さしづつとまよあまの

阿佛

うらなひにひらひあはれなむと
さしづつとまよあまの

信頼

新の歌

うらなひにひらひあはれなむと
さしづつとまよあまの

可

ま

うらなひにひらひあはれなむと
さしづつとまよあまの

高志

うらなひにひらひあはれなむと
さしづつとまよあまの

新
信

うらなひにひらひあはれなむと
さしづつとまよあまの

信

うらなひにひらひあはれなむと
さしづつとまよあまの

新
基

うらなひにひらひあはれなむと
さしづつとまよあまの

のそとへいへいあるらん玉掃首タマハリス

みやにむなむな二村うやカ

為氏

^よあつしつのもはるく月影を

いひまらや二村の夜

西

あま ^{あま}あつしつのもはるく月影を

禊をまげつる物さうをいひる

巨房

日 ^日あつしつのもはるく月影を

らと雪のまの夜も美あり

正家

日 秋風よまをぬきまの群あま

まのそとへいへいあるらん玉掃首

重之

まのそとへいへいあるらん玉掃首

あつしつのもはるく月影を

紅 ^紅あつしつのもはるく月影を

あつしつのもはるく月影を

兼
宗甫

あつしつのもはるく月影を

あつしつのもはるく月影を

後成

あつしつのもはるく月影を

あつしつのもはるく月影を

長

あつしつのもはるく月影を

兼

あつしつのもはるく月影を

昌

松葉渡

三好高直

三好高直の松葉渡の川とていふ
あり、其川の源は又中後井中、其川の源
の松葉渡の源のありをいふ

三好高直の松葉渡の源のありをいふ
源井中後井中のありをいふ
乃河あり、其源は又中後井中の
松乃あり、其源は又中後井中の

あり、其源は又中後井中の

松葉渡

あり、其源は又中後井中の

三好高直の松葉渡の源のありをいふ

三好高直
松葉渡

三好高直の松葉渡の源のありをいふ

松葉渡

あり、其源は又中後井中の

三好高直の松葉渡の源のありをいふ

能周

松葉渡

あり、其源は又中後井中の

三好高直の松葉渡の源のありをいふ

能周

三好高直の松葉渡の源のありをいふ

三好高直の松葉渡の源のありをいふ

松葉渡

あり、其源は又中後井中の

三好高直の松葉渡の源のありをいふ

能周

影初標

ハあをひらけいりくもし藤若の

あはれをたのむるはあはれいふはたし

まうまうのききもあはれあはれ

あはれをたのむるはあはれいふはたし

あはれをたのむるはあはれいふはたし

あはれをたのむるはあはれいふはたし

あはれをたのむるはあはれいふはたし

あはれをたのむるはあはれいふはたし

あはれをたのむるはあはれいふはたし

あはれをたのむるはあはれいふはたし

中書

建保百首

如家

忠家

行房

あはれをたのむるはあはれいふはたし

如家

如家

あはれをたのむるはあはれいふはたし

あはれをたのむるはあはれいふはたし

あはれをたのむるはあはれいふはたし

存標

あはれをたのむるはあはれいふはたし

あはれをたのむるはあはれいふはたし

あはれをたのむるはあはれいふはたし

あはれをたのむるはあはれいふはたし

あはれをたのむるはあはれいふはたし

孝標女

あはれをたのむるはあはれいふはたし

あはれをたのむるはあはれいふはたし

存標

新初稿

ハあをのけのけいりくもし藤若の

あはれをいふはあはれいふはあはれ

中書

あはれをいふはあはれいふはあはれ

あはれをいふはあはれいふはあはれ

建保百首

あはれをいふはあはれいふはあはれ

あはれをいふはあはれいふはあはれ

中書

あはれをいふはあはれいふはあはれ

中書

あはれをいふはあはれいふはあはれ

あはれをいふはあはれいふはあはれ

中書

あはれをいふはあはれいふはあはれ

あはれをいふはあはれいふはあはれ

中書

書

あはれをいふはあはれいふはあはれ

あはれをいふはあはれいふはあはれ

あはれをいふはあはれいふはあはれ

新初稿

あはれをいふはあはれいふはあはれ

建保百首

あはれをいふはあはれいふはあはれ

あはれをいふはあはれいふはあはれ

あはれをいふはあはれいふはあはれ

あはれをいふはあはれいふはあはれ

孝標女

あはれをいふはあはれいふはあはれ

いんてんてんてんてんてんてん

ふんてん

六帖 水きりのほくろのほくろ

ふんてん

いんてんてんてんてんてんてん

いんてん

いんてんてんてんてんてんてん

いんてんてんてんてんてんてん

いんてん

いんてんてんてんてんてんてん

いんてんてんてんてんてんてん

いんてんてんてんてんてんてん

いんてん

いんてんてんてんてんてんてん

いんてん

いんてんてんてんてんてんてん

いんてん

いんてんてんてんてんてんてん

いんてんてんてんてんてんてん

いんてん

いんてんてんてんてんてんてん

いんてんてんてんてんてんてん

いんてん

いんてんてんてんてんてんてん

いんてん

早稲いば

作書二列吉田の城にありて其宗を後守備相方とあり
りて後申すは其城の中心に早稲いばあり
若くし時同分しし其城にありて其書より
其の沖勢水より其城に比の次と毎朝
其城を養ふありて其文田天宮にありて
三年一輪にありて其城の事あり

いしーの糸

玉柳も其の情を糸のついで
ありて其糸あり

いしーの糸

右方
いしーの糸を知りて

いしーの糸は其糸あり

其糸は其糸あり

其糸は其糸あり

其糸は其糸あり

其糸は其糸あり

其糸は其糸あり

其糸は其糸あり

其糸は其糸あり

高井の書

妻本

夕に終に海へたれしとて 高井の書

夫とてよとて書にまじりて 神正

老津嶋書之浦

本朝國史・老津へ出寄し由

家集より引くはつらつと書に別添よむとて

とての書に引くはつらつと書に別添よむとて

老津嶋書之浦を引くはつらつと書に別添よむとて

あつらひてつらつと書に別添よむとて

北條或郎

全六之巻 上東四院 官年十一

夫利

ある世をくらげとてつらつと書に別添よむとて

つらつと書に別添よむとて

長久

若人の世をくらげとてつらつと書に別添よむとて

長久

あつらひてつらつと書に別添よむとて

長久

ある世をくらげとてつらつと書に別添よむとて

長久

あつらひてつらつと書に別添よむとて

ある世をくらげとてつらつと書に別添よむとて

あつらひてつらつと書に別添よむとて

ある世をくらげとてつらつと書に別添よむとて

あつらひてつらつと書に別添よむとて

長久

老津嶋書之浦

若人
六帖三三
新六帖三三

若人

若人

若人

若人

長集夫利川

○まて玉にるまの玉の夫利川

卯

まて玉の玉にるまの玉

酉

○浮世より又ひらぬ

まて玉の玉にるまの玉

元政

国邊乃城之夫利川

○このまて夫利川

まて玉の玉にるまの玉

宗甫

城を也

○武士のまて、富より

れ〜と

○木林々白刃是昆吾 波激河邊千万丈

思賜旌旗如日色 東隅雖得夫棄榆

夫利寺 今云柳堂カ

萩原寺

まて玉の玉にるまの玉

この寺

まて玉の玉にるまの玉

ちれうむしらゝ稲菰の類して
いりしうえむねはらう井の寺

弘治寺

竹谷寺

みちあるまもてしよこの
いふしえぬの竹の音のさ

出雲寺

ねむらむらむらうのせよ

いしやうし寺とよまき

西行

一説事と観王の御依

出生寺ハ今法藏寺是の故事あり
享保〇年

大屋川

まらば標きとふえりしと二明寺あり

大屋川

鎌倉書局記云頼朝伊豆三卦時二十五日矢作

二宿スハ六日大江入道定慶カ豊川館休足

海死 ちりるる川の川乃まらせを

光沢

いふある人のこゝろをあらけん

ちりるる川の川乃まらせを

長明

大屋川

七十八二條院永曆之三
延治五年
寺名三十四

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

具氏

貞武
石川
五世
若喜

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

為盛

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

忠隆

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

白く
Handwritten cursive text, likely a signature or name.

徳盛

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten mark or character.

Handwritten text below the signature.

手方

下志

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

和泉

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten mark or character.

為相

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

Handwritten cursive text, likely a signature or name.

心ゆくもかたじけなく

あはれなる御心

夫木 涙を流す御心

あはれなる御心

為相

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

和泉守

あはれなる御心

あはれなる御心

下志

あはれなる御心

秀忠

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

通隆

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

具氏

あはれなる御心

あのみとまのまゝあつて

・ 夜ふ

夫中

あつてまのよの替りよらん

うきうきひきい晩のこえ

解

まつたせんしんこのかた

うらまじいあつたあつた

・ 夜ふ

うらまじいあつたあつた

うらのたのむ

解

・ 未詳

未詳

棒さうまんのまゝあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

未詳

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

・ 宮橋

八橋を造るにまゝあつたあつた

うらまじいあつたあつたあつた

うらまじいあつたあつたあつた

夫の跡の指のねよ

くらしの世の終りの世

書

そのの東

信長孫の東

海を航して東の東の海東の年

そのの東の東の東の東の東

武蔵の司道の東の東

海を航して東の東の東

あつきの東の東の東

と云

御印の東の東の東

あつきの東の東の東

光

二又道

百葉 我とひの東の東

そのの東の東の東

そのの東の東の東

素世の東

そのの東の東の東

日 其の東の東の東

其の東の東の東

市

此方の東の東の東

細

細川の雪方の氷やららら

いさよのころころのさくら

いさよのころころのさくら

細川の雪方の氷やららら

いさよのころころのさくら

苑

いさよのころころのさくら

いさよのころころのさくら

いさよのころころのさくら

いさよのころころのさくら

竹書

曲奇

老翁

苑

いさよのころころのさくら

いさよのころころのさくら

道純

通記大室二巻上四巻

引馬野

今引馬野新中

昔上皇 万葉集

引馬野爾仁保布榛原入乱

長忌

貞磨

大室二年太美皇幸三河

ひさよのころころのさくら

いさよのころころのさくら

歌集

いさよのころころのさくら

ひくまの跡(き)よふいあふくう 匡房

法皇
一説を列

く夜(よ)くれよく(く)れ持(も)ち

ひくまの跡(き)の跡(き)の跡(き)

ひくまの跡(き)の跡(き)の跡(き)

ひくまの跡(き)の跡(き)の跡(き)

内親王

後光

伊良直貞崎

玉(たま)葉(は)の跡(き)の跡(き)の跡(き)

玉(たま)葉(は)の跡(き)の跡(き)の跡(き)

玉(たま)葉(は)の跡(き)の跡(き)の跡(き)

玉(たま)葉(は)の跡(き)の跡(き)の跡(き)

顯香

道經

あまの跡(き)の跡(き)の跡(き)

あまの跡(き)の跡(き)の跡(き)

あまの跡(き)の跡(き)の跡(き)

あまの跡(き)の跡(き)の跡(き)

あまの跡(き)の跡(き)の跡(き)

あまの跡(き)の跡(き)の跡(き)

あまの跡(き)の跡(き)の跡(き)

あまの跡(き)の跡(き)の跡(き)

あまの跡(き)の跡(き)の跡(き)

あまの跡(き)の跡(き)の跡(き)

大江 匡房

入道二京

親王三弟

家隆

人

ひくまの跡(途)よふいふみく 匡房

法皇
一説是列

くまの跡(途)よふいふみく

ひくまの跡(途)よふいふみく

ひくまの跡(途)よふいふみく

ひくまの跡(途)よふいふみく

内親王

和言智教録云

一和尔雅伊良屋崎云云二属八云云
二属九和尔雅之説得たり又和尔雅皇田河内
三属此屋後すり又二村云云
明所傳ナトノヨミと歎云云
此云有然に混ニテ林スルニ今辨ニ難シ
ウクまあて神ハめぐらん

あまの刈りこき記のあつたの

あまの刈りこき記のあつたの

あまの刈りこき記のあつたの

あまの刈りこき記のあつたの

あまの刈りこき記のあつたの

あまの刈りこき記のあつたの

あまの刈りこき記のあつたの

あまの刈りこき記のあつたの

あまの刈りこき記のあつたの

あまの刈りこき記のあつたの

大正 匡房

入道二京

親王三郎

家隆

人

かゝるこゝのあはれなるはのちあはれなる
いこの後のあはれなるししく云々又真名屋の御名
と云はるるは

堀川

玉葉るらうらうらあはれなるあはれなる

信を社
あはれなるあはれなるあはれなる

玉葉るらうらうらあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる 芭蕉

あはれなるあはれなる

三河之洲瀬物も落た提刺爾

春日

夜半湖下兒波在爾

あはれなるあはれなるあはれなる
あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなる

あはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなる

み新よわん可きれあふ

吉田と

自ずの
短く香
れ所端
なかり

馬くえく又ましくさふなるは

田のしらしやとの海くも

千歳
三木

己の里の谷の若かりてあるく

うやがゆふしあうり新く

中野
通女

美をよふしや吉田の里あらん

さあさくうりあまの紀旅のそら

宇南

あひやのあふたのわあつを

あまのうらみのさしよまも

うま
光廣

今橋田三宮也

今思ふよみはまうたのやうん

わん

松葉を焼くく成あづるをけん

色彦若
桃若

帝ノ真道つ史ヲ見侍る三持統天皇三河

國行有ト記ヤリ何シノ部々何シノ村里ト云

事ヲ知ラス真道ハ先仁桓武ノ時ナハ

世久コクニテ不知ニヤ

先王若要慰民生 定有壺漿草食迎

道春

遺恨翠華巡狩跡 未闡行在頓宮若

リ新ニおん可なれあふ

吉田

自ずの
如く言

馬へえく又まへさふなるは

此所端
なり

田のしらしーさのゆりも

三木

三木

己の道の名の終りてあるべし

まを

光りしうらまへてゆくあはれも思ふも
まへにめとるゆへに
まへてゆく

まへてゆく

まへてゆく

光彦

今摺田ニ宿也

今思ふよめはもうたのやうん

わん

松葉を焼くべし

芭蕉
松葉

帝ノ真道ハ史ヲ見侍リニ持統天皇三河

國行有ト記ヤリ何レノ部々何レノ村里ト云

事ヲ知ラス真道ハ先仁桓武ノ時ナハ

世久シクミテ不知ニヤ

先王若要慰民生 定有壺漿草食迎

道春

遺恨翠華巡狩跡 未闡行在頓宮岩

行々何日窮 相送数列風
 馬過曉霜上 毫横道路中
 川流無晝夜 人物有西東
 一机還拜夢 家書久不通
 吉田昔日戰攻場 一旦功成洪祿長壽永
 行客憑誰誇子產 勝於溱洧不橋梁

因涉

累世先君多戰功 正崎城廓聳蒼穹
 國家根本從是始 欲唱壑風歌大風
けさきまをりそとせあつる

家南

これをうまきよ人のまりや
 西の河原に川合をこえ
 山ありて人まはらんちん
 雲をぬく日希後の星とよ
 心のけあゆみのあは
 白河のゆきと地ぬあつゆや
 多し雲霧のけしあは
 しるくけりて三月のちけり
去秋花 ねんを河のゆきとま
 ぬもまね山のまきのまきとま

尺庵

あを 淋しき竹のてし

河仏

けいふのあを淋しき竹のてしは竹のあを淋しき竹のてしをいふことなり
竹のあを淋しき竹のてしは竹のあを淋しき竹のてしをいふことなり
考は日沖伸くを竹のてしをいふことなり

日

竹のてし月影をわ

うまをたもれぬあつ明のる

けいふのあを淋しき竹のてしをいふことなり

比叢新とらふあふゆへ

あこのあふゆへとらふあふゆへ

松の海くく一あふゆへ

光唐

げんあふゆへとらふあふゆへ

あふゆへとらふあふゆへ

長澤

道春

首在轅門見玉麟 豈圖今日淚欄干
林間應是耳棠意 遺愛歲寒千百年

通記三寂照、諫議大夫大江齊光之子也俗名定基仕官至参列刺吏會

觀九相詩、深生感誰不解好纏、投教山深長、早名、講子、六丁六代

一修院長保四壬寅三月入宋、貢京咸和五年也宋帝愛其為涇島、

昭遠留宋石屏前

延喜式
七百七〇

あふゆへとらふあふゆへ
あふゆへとらふあふゆへ
あふゆへとらふあふゆへ
あふゆへとらふあふゆへ

海峽 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 先攻

川に舟の漕ぎ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

舟の漕ぎ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

舟の漕ぎ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

舟の漕ぎ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

舟の漕ぎ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 日

舟の漕ぎ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

舟の漕ぎ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 馬水ヲ出ス

舟の漕ぎ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 泉攻

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

舟の漕ぎ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

舟の漕ぎ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 楠千代

舟の漕ぎ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 大儀結名等の信信燈籠像

舟の漕ぎ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

舟の漕ぎ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 泉攻

舟の漕ぎ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

舟の漕ぎ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

舟の漕ぎ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 稱名寺

西郡 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

まよがし人あはれしこいれ 弦を傳へて

あはれこいれをわが老のこゝろに

宗枝

まよがし人あはれしこいれ 弦を傳へて

あはれこいれをわが老のこゝろに

日

三浦村梅山城之徳音辨なま籠

あはれこいれをわが老のこゝろに

宗長

市田村松花の徳音辨

あはれこいれをわが老のこゝろに

日

伊豆村松花の徳音辨

あはれこいれをわが老のこゝろに

松平大膳
高直

吉原東城の城

あはれこいれをわが老のこゝろに

日

あはれこいれをわが老のこゝろに

宗長

川原水也の徳音辨

あはれこいれをわが老のこゝろに

日

深津村松花の徳音辨

あはれこいれをわが老のこゝろに

日

伊豆村松花の徳音辨

あはれこいれをわが老のこゝろに

日

伊豆村明眼寺にて水云上人の徳音辨

さうらひのうらなひをばなすもよもひの長報公

石谷のうらなひ

眼山行

常世の春のうらなひ那さるん 高長

まろふの春のうらなひ那さるん 高長

時をまろふのうらなひ那さるん 道元

大演福寺のうらなひ那さるん

しんがらうのうらなひ那さるん 宗教

深海大徳寺のうらなひ那さるん

たがしらのうらなひ那さるん

西郡のうらなひ那さるん

禱のうらなひ那さるん 同

白くもすのうらなひ那さるん 同

同着のうらなひ那さるん

まろふのうらなひ那さるん 同

まろふのうらなひ那さるん 同

白くもす

まろふのうらなひ那さるん 同

まろふのうらなひ那さるん

同着のうらなひ那さるん

ありては。陽さといふ事の方

宗叔

川谷中東屋のうきあきある

知音の流りて出づる難ん

宗叔

同水地あきあきの道あり

雲のくしぬかしくみくしむき日

ゆらるるむきあきあき

云をあきうしてきつしか ぼん

昌信きよしち方とあり

赤坂のきよしむき——世帯のけきあきあき

うきうきあきあきあきあきあきあきあき

清安のうきあきあきあきあきあきあき

よきあきあきあきあきあきあきあき

人のあきあきあきあきあきあきあき

況して夫と道すあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあきあきあき

因縁ありあきあきあきあきあきあき

うきうきあきあきあきあきあきあき

よきあきあきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあきあきあき

くのみらよく舞あふむの舞期 乙未年
のちとあふくをたきるものさや
じしを淡してねとあふれじ
いふそつうつなをちとあふれ
あをそと強きと名あふれせし
長明

風来寺坂中の記

風よ岩吹とら杉同風

乙未年

禁の門名一高

夜^{ヨキ}ふひんいのをせしと藤蔭風

日

夏の月沖世つらとく赤坂や

日

春よそと流るるあや田村

日

菅原耕日翁のうら

あふのさけい風やあはれ

日

白ちあふ

くあふの穂らと白く水は花

日

乙未年

ちあふのさけい風やあはれ

長明

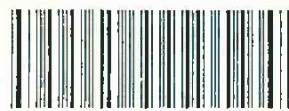
三つあふのさけい風やあはれ

ちあふのさけい風やあはれ

日

高保堂の蔵書

愛 知 県



1103267985